

東京の中小病院の崩壊がもたらすこと

～災害医療の視点から～

東京都の災害医療

「災害時における医療救護活動は、都民の生命と身体を守るかなめとなる重要なものです。」



東京都保健医療局ホームページより

東京の中小病院の崩壊がもたらすこと

東京都は都内にある病院を、「災害拠点病院」、「災害拠点連携病院」、「災害医療支援病院」に区分している。



- 災害拠点病院 → 主に重症者の収容、治療を行う。
- 災害拠点連携病院 → 主に中等症者や容体の安定した重症者の収容、治療を行う。
- 災害医療支援病院 → 専門医療、慢性疾患への対応、区市町村地域防災計画に定める医療救護活動を行う。

災害時の病院の役割分担

東京の中小病院の崩壊がもたらすもの

災害拠点病院

→ 基幹災害拠点病院、地域の中核病院で東京都が指定したもの

災害拠点連携病院

→ 救急告示を受けた病院で東京都が指定したもの

災害医療支援病院

→ 災害拠点病院、災害拠点連携病院を除くすべての病院



つまり

東京の全ての病院は災害時の役割を担っている

東京の中小病院の崩壊がもたらすこと

東京都内には

83ヶ所の災害拠点病院

138ヶ所の災害拠点連携病院

約400ヶ所の災害医療支援病院があり

更に発災時には、各地域に緊急医療救護所や、医療救護所、避難所救護所等が設置されることになっている。



これらが連携し、それぞれが役割を全うし災害時の医療を行う。

ひとつでも欠けてしまうと災害時の医療は成り立たない



東京の中小病院の崩壊がもたらすこと

臨時医療施設や救護所だけでは対応しきれない。
病院のバックアップは不可欠。
災害拠点病院だけでは、すぐに一杯になってしまっていて診療は
麻痺する。



東京中に散らばる中小の民間病院が災害医療支援病院として
災害時医療を下支えすることは必要不可欠。

東京の中小病院の崩壊がもたらすこと

もし、あなたの地域の中小病院が次々と閉鎖していき、災害時医療を担う機関が足りなくなったら…

中等症患者の救護
所からの搬送先が
足りなくなる

救護所の次のレベル
の医療に繋がらず搬
送待ちの方で溢れる

また、治療が終わっ
た方の下り搬送の停
滞が起き拠点病院の
医療が崩壊



助かる命が助からなくなる

病院は、地域差が出来ないように計画的に閉院していく訳ではありません。あるところで力尽き倒れてしまうのです。同じ医療圏内で次々と病院が閉院している地域があります。このまま進行すると医療提供体制に偏りが生じ、今まで守られてきた地域医療が成り立たなくなってしまうです。



大規模災害時は全ての医療機関が総力を結集して対応します。東京中に災害医療支援病院として散在する中小病院が抜け落ちてしまっても、災害時の医療は成り立ちません。





